

サツキ 晴れ

Satsuki
bare

CONTENTS

- 01 Cure病気のおはなし
- 02 Care療養支援のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 TOPICS
市民公開WEBセミナーを開催しました!
- 05 みよし市民病院を支えるチーム活動
- 06 マンモグラフィ装置を更新しました!



院長
メッセージ

令和2年、みよし市民病院に、認知症看護認定看護師2名が誕生しました。認知症の症状がある入院患者さんが、穏やかな気持ちで入院生活を送れるように、認知症サポート医や多職種とも連携して質の高いケアを提供しています。今号では認知症ケアを支援するチームにスポットをあててご紹介します。ぜひご覧ください。



ご自由にお持ちください

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+
シェアを
つなぐ仕事

認知症患者の
穏やかな日々を支える。

認知症看護特集

みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION

マンモグラフィ装置を更新しました!



女性スタッフだから安心!
今年の乳がん検診は
最新のマンモグラフィで

みよし市民病院では、2021年3月、乳がん検診や乳房の検査に使用しているマンモグラフィ装置を更新しました。新しい装置は、従来の機種より少ない放射線量で、高画質な画像を撮影することができます。検査の際は、女性スタッフが丁寧に対応しますので、安心して検査を受けてください。

診療放射線技師 募集

(会計年度任用職員)



私たちと一緒に働きませんか?

お問い合わせ

詳しくはこちら

みよし市民病院 管理課
TEL 0561-33-3300



みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切に医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



サツキ
晴れ

病院広報誌 特設サイト

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。 [こちらから](#)



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



みよし市民病院

Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地

TEL 0561-33-3300

<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ

発行責任者/院長 伊藤 治
発行/みよし市民病院 広報グループ
記事提供/中日新聞広告局
編集協力/プロジェクトリンク事務局
発行日/2021年6月



SPECIAL REPORT

認知症患者の 穏やかな日々を支える。

認知症看護特集

認知症への理解、患者への理解を深めて
入院生活を手厚くサポートする。

CHAPTER 01 認知症患者が抱える 課題を解決するために。

「野球、始めますよ」。そんな看護師の
声に促され、みよし市民病院のデイルーム
にやってきたのは、2階の1病棟（一般病
棟）に入院している患者である。画面をじっ
と見つめ、鼻肩の選手がヒットを飛ばすと、
うれしそうに目を細めた。この患者は循環
器疾患で入院したが、入院後もなく、認
知機能が急速に悪化。夜になると、「家に
帰る」と徘徊するようになった。「何とか楽
しい気持ちになっただけじゃないか」。対策
に取り組んだのは、認知症看護認定看護
師の日浦麻喜である。「ご家族から野球観
戦が趣味だと聞き出し、毎日テレビ観戦に
誘うようにしました。それからは表情も穏
やかに、よく眠れるようになりました」
と、ほほえむ。

もう一人、3階の3病棟（療養病棟）で
認知症看護を進めるのは、同じく認知症
看護認定看護師の近藤千春である。「最
近うれしかったこと」として、次のような話
を教えてくれた。「その患者さんは認知症
のため、食事をほとんど召し上がりませ
んでした。そこで、ご家族に好物を持っ
てきていただいたり、おやつ時間を設けるなど、
根気よく食事を増やす努力を続けまし
た。その結果、数カ月して1日3食おいし
く食べられるようになり、最終的には施設
に入居することが決まったんです。在宅へ

CHAPTER 02 病棟から外来へ 認知症看護を広げたい。

日浦と近藤が認知症看護認定看護師
の教育機関に通い、資格を取得したのは、
令和2年のこと。どうして、一念発起して
入学を決意したのか。「この10年で認知症
の患者さんがかなり増え、対応に困って
いました。もっと専門的な知識を身につけ
れば、薬や行動抑制に頼らず、穏やかな入
院生活を過ごしていただけるのではないかと
考えたのです」と日浦。それに続いて、近藤
も次のように話す。「軽い認知症だった人
が入院中に症状が悪化し、家に帰れな
くなってしまふ。そんなケースを数多く見て、
悔しい思いをしていました。もっと認知症を
理解して、私たちみんなが偏見を持たずに
看護、介護すれば、在宅へ戻る道を作れる
のではないかと考えました」。

約1年間の勉強で、2人は認知症の心
理状態や問題行動の原因などを科学的に
学び、患者への適切なケアをマスターした。

BACK STAGE

在宅に近い病院で 展開される看護の最先端。

●医療も看護も最先端をめざし
て、日々進化している。最先端の
医療が展開されるのは主に高度
急性期病院だが、認知症看護の
ような、時代が求める最先端の看護
が必要なのは、みよし市民病院
のような在宅に近い病院ではな
いだろうか。

●専門的な知識を持って、認知
症患者の気持ちを理解し、心穏
やかに過ごせるように支援する。
そのノウハウの蓄積が、地域で暮
らす高齢者の生活の質の底上げ
に繋がっていくはずだ。



繋ぐことができ、本当にうれしかったで
すね」。

これは、同院の入院患者に対する認知
症看護の成功事例の一つ。同院では今、こ
の2人が中心となり、病棟全体で認知症
看護に力を注いでいる。たとえば、オムツ外
しを防ぐためのつなぎ服（上衣と下衣が一
体の介護衣）を、日中は使わないようになっ
たことも、大きな収穫だ。「つなぎ服は首元
も窮屈で、着心地はよくありません。それ
はわかっているのですが、すぐオムツを触っ
てしまう患者さんに対しては、どうしても
使わざるを得ない状況でした。でも、こまめ
にトイレ介助などを工夫すれば大丈夫だ
とスタッフに伝え、つなぎ服に頼らない看護
を实践するようになりました。最初は抵抗
感のあったスタッフも、今はやればできると
実感していると思います」と、日浦は話す。

COLUMN

●高齢化とともに、認知症になる人
の割合が増えており、今や85歳以上
の4人に1人が認知症であるという。
●認知症は、脳細胞の死滅や活動の
低下により、認知機能に障害が起き
る病気。認知症が進行すると、理解
力や判断力が低下し、日常生活・社
会生活に支障をきたす。認知症を完
全に治す治療法はまだない。だからこ
そ、病状の進行を遅らせ、生活の質
を保つために、看護師の専門的なケ
アが非常に重要な役割を担っている。

今は、その専門知識を、病棟看護師たちへ
と広げている最中だ。「まずは、もともと院内
に認知症看護を普及させていきたいと考
えています。今はコロナ禍で大規模な勉強
会もままありませんが、いろいろな機会を
とらえて、全員がより良いケアを実践でき
るようにしていきたいですね」（近藤）。さら
に、いずれは病棟だけでなく、外来にも関
わっていくという目標を持つ。「たとえば、
自宅に帰った認知症患者さんについて、相
談を受けることもありますが、今のところ
介入できていません。いずれは、入院から在
宅までずっと相談にのっていきけるようなシ
ステムを作っていきたいと考えています」と
日浦は意欲を語る。

高齢者の多くが在宅で療養する時代、
認知症看護は地域に必要不可欠な専門
知識になりつつある。認知症看護に精通し
た看護師が中心となり、入院治療から在
宅までを見渡し、認知症の人とその家族
を支えていく。その体制づくりは今、始まっ
たばかりだ。

Cure 病気 のおはなし

先生、
教えて!

今回のテーマ

認知症

認知症は、誰でもなりうる病気。
ご家族や周りの人が
理解して対応することが大切。

認知機能に障害が起き 生活が困難になります。

年を取ると足腰が衰えるように、脳の働きも少しずつ落ちていきます。物忘れは誰もが体験する脳の機能の衰えです。しかし「財布や通帳をしまった場所がわからなくなる」「電話を切った後、誰がどんな用事でかけてきたかが思い出せない」「出かけると家に帰る道がわからなくなる」など、日常生活に支障が出てくると、認知症の可能性が高くなります。認知症は、脳細胞の死滅や働きの低下によって、認知機能に障害が起きる状態です。わが国では、65歳以上の高齢者は人口の28%を超えていますが、このうちの約16%（約600万人）が認知症を患っていると推定されています。

安心できる接し方で 不安な気持ちを支えます。

当院は平成30年、愛知県による「認知症対応病院実地指導」を全職員が受け、認知症対応力の向上に努めています。病棟では、認知症サポート医と認知症看護認定看護師（2名）を中心とした「認知症・せん妄サポートチーム」が、認知障害のある入院患者さんを支援しています。患者さんと接するときは、突然の入院で戸惑う気持ち



をよく理解し、安心できる話し方を心がけています。また、適切な薬を用いて、不安を取り除き、穏やかな入院生活を送っていただくよう努めています。

外来では、予約日に来られない、薬の飲み忘れが多いといった変化を察知し、地域連携・医療相談室の職員がご家族や地域包括支援センターと連絡を取り合って支援しています。さらに、専門家の診察が必要な場合は、豊田厚生病院の専門外来に紹介しています。



Message



みよし市民病院 事業管理者
成瀬 達

ご家族の認知症で困ったら、気軽にご相談ください。

認知症は進行性の病気ですが、一度にすべての脳の働きが失われるわけではありません。ご家族や周りの人が足りないところを補い、残された機能をうまく使うことにより、自立できる期間を延ばすことができます。また、一部の認知障害については、運動したり、地域の行事や交流活動に積極的に参加することにより改善することもあります。

ご家族が認知症になって困ったときは、一人で抱えこまないで、地域包括支援センターや地域連携・医療相談室の職員にご相談ください。きっとそこから解決の糸口が見つかるはずです。なお、認知症が進行する前に、家やお金の管理、治療法の希望などを聞いておくことも大切。ご本人にエンディングノートを書いてもらうのも一つの方法です。



運動不足解消①

いきなり無理せず徐々に体を慣らして。慣れてきたら少しずつ活動量をあげましょう。

Care 療養支援 のおはなし

今回のテーマ

認知症看護

患者さんの意思を尊重し
生活の質を保てるような
専門的なケアを実践しています。

病気を治すだけ
じゃありません。

認知症患者さんを 深く理解するために。

認知症患者さんは落ち着ける環境を作ると、症状や問題行動を和らげることができます。そのため当院では、まずは患者さん一人ひとりを深く理解するところからスタート。どんな仕事をしてたか、どんな趣味をお持ちか、どんなふうに家で過ごしているかなど。それぞれの生活史を把握した上で、入院中の生活



を支えています。たとえば、一人暮らしの方なら、一人で落ち着いて食事できるように配慮したり。ゴルフの好きな方なら、ゴルフ番組を観ていただくなど、ご本人が安心して過ごせる入院環境づくりに力を入れています。

薬や行動抑制だけに 頼らない看護をめざして。

急に暴れるように見える認知症患者さんですが、実はその行動にはさまざまな理由があります。たとえば、夜に徘徊する患者さんの場合、どうして眠れないのか、理由を探っていきます。活動量が足りないようなら、昼間、ナースステーションで塗り絵や折り紙などをしていただき、よく眠れるようになる方もいらっしゃいます。また、日常の動作をお手伝

いする際、手で払いのける方がいますが、それは機嫌が悪いのではなく、驚いているだけかもしれません。その場合、目と目を合わせ、ゆっくり説明すると、きちんと理解していただけます。

このように、患者さんの思いや行動をよく理解し、こちらのケアも理解していただくことが、認知症看護の基本です。病棟看護師一人ひとりが認知症への理解を深め、丁寧にアプローチするよう心がけています。



Message



認知症看護認定看護師
左) 近藤千春(3病棟)
右) 日浦麻喜(1病棟)

認知症患者さんのために、私たちができることを。

入院がきっかけで認知機能が悪化する患者さん、治療が終わっても認知症のために自宅に戻れない患者さんなど、認知症ゆえに苦しんでいる患者さんやご家族が多くいらっしゃいます。そうした方々の少しでも力になりたいと考え、私たちは認知症看護の専門知識と技術を習得。病棟看護師たちと一緒に、より良い看護が提供できるよう日々努力しています。

認知症に対する偏見を取り除き、ご本人の気持ちを理解するようにアプローチすることで、心穏やかな入院生活を過ごしていただけます。また、生活のリズムを取り戻せば、退院して在宅療養していただくこともできます。一人でも多くの認知症患者さんに在宅の暮らしに戻っていただけるように、ご家族の協力もいただきながら、これからも全力で取り組んでいきたいと思ひます。



運動不足解消②

1時間に1回くらい、少しでも体を動かす習慣を。たとえば、その場での足踏みでもOK。

地域医療を 知ろう

今回のおはなし

認知症 初期集中 支援チーム

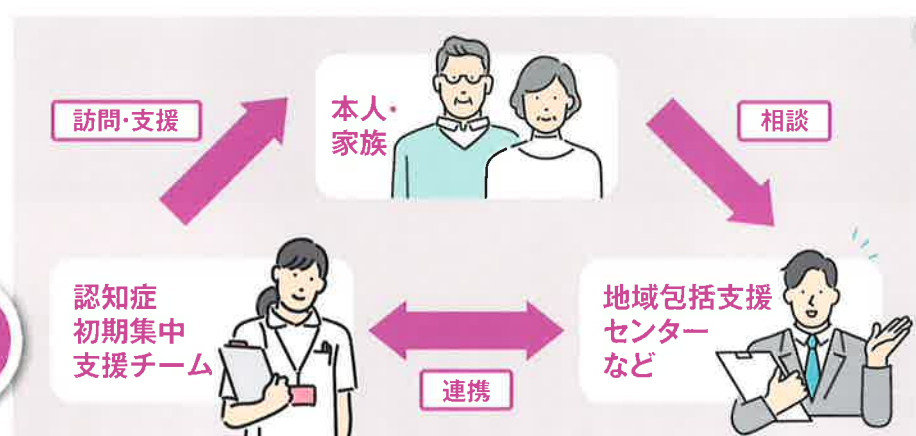
「認知症の人への支援」
について
学びましょう。

認知症の人が住み慣れた 地域で暮らしていくために多職種チームが 包括的に集中的に支援します。

みよし市では、平成28年11月1日、市民病院内に「認知症初期集中支援チーム」を設置。このチームは、認知症サポート医、保健師、看護師、作業療法士、社会福祉士など医療・介護に関する専門家で構成されており、地域包括支援センターや地域の医療機関とも連携し活動しています。チームの主な役割は、地域のなかで認知症の疑いであっても医療や介護には繋がっていない、または認知症であっても医療・介護サービスを中断しているといった状況の人(※)に対して、適切な医療や介護を受けられるように自立生活を支援することです。

たとえ認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていけるように、多職種チームが包括的かつ集中的に認知症の人や家族をサポートしています。

※対象者には40歳以上で在宅で生活をしており認知症が疑われる人など、一定の条件があります。



みよし市民病院では

認知症初期の困りごとを、地域とも連携しながらいっしょに解決していきます。

みよし市民病院では、地域連携・医療相談室が中心となり、認知症の方やご家族に対して積極的に支援をしています。我々の役割は大きく3つあり、入退院の患者さんに対しての支援、在宅医療と介護の連携、認知症支援です。

認知症支援については、多職種からなるチームを形成し、それぞれの専門家の視点で支援ケースを検討。支援の方向性の再確認を行っています。一人暮らしで日常生活も困難になっていた方のなかには、認知症初期集中支援チームと連携し、認知症の診断・治療を受けて、さらに介護サービスや福祉サービスを活用することで一人暮らしを続けているケースもあります。

認知症の疑いであっても、ご本人やご家族はなかなか認め

たくない、受け入れたくないという思いがあるかもしれません。しかし、早期に対応することで進行を緩やかにし、在宅での生活を継続することも可能となります。「どこを受診したらいいのか、どういったサービスや支援が受けられるのか」など、認知症初期の困りごとのお話をしっかりと伺い、いっしょに解決していきます。早めに相談、受診することで、その後も自分らしい生活を送れると思いますので、一人で抱え込まず、ぜひ我々にご相談ください。

みよし市民病院 地域連携・医療相談室
社会福祉士 若佐高明



運動不足解消③ 家の周りを散歩する、子どもや孫と遊ぶなど、日常生活活動のなかで運動量をアップ。

TOPICS

WEBセミナー
初挑戦!



みよし市民病院 市民公開WEBセミナーを開催しました!

当院の医師がWEBセミナーに登壇。
チャットによる質問にもお答えしました。

令和3年3月13日(土)に、市民公開WEBセミナーを開催しました。当セミナーは、コロナ禍でも市民の皆さんに正しい健康情報や病院の知識をお伝えしたいと、中日新聞LINKED主催、みよし市民病院共催で実施したものです。当院の医師が講師を務め、病気予防や療養生活に役立つ情報をご紹介。チャットによる質問コーナーなども設け好評でした。

応募総数▶282名 参加総数▶148名

Voice 参加者のコメントの一部をご紹介します!

- 感染対策をして必要時は受診する大切さを感じました。
- 家族に内視鏡検査を勧める機会があったときに、「安心して行ってきて」と伝えたいと思いました。
- 膝関節の状態によって、治療法がいろいろあることがわかりました。

今すぐ視聴できる! 一部のWEBセミナーは、期間
限定で録画配信をしています。
録画配信 ぜひご視聴ください。
<https://project-linked.work/miyoshi/webinar>



ご視聴いただき
ありがとうございました



変形性膝関節症を 知ろう

第二整形外科 部長
辻本朋哉

大腸がん検診を 受けましょう

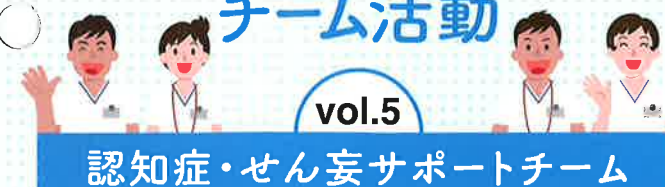
副医局長・内科部長
濱田広幸



受診に不安を 感じている方々へ

院長
伊藤 治

みよし市民病院を支える チーム活動



vol.5
認知症・せん妄サポートチーム

多職種で課題を共有。 認知症ケアの質の向上をめざしています。

認知症を患う患者さんに心穏やかな入院生活を送っていただけるように、当院では事業管理者の成瀬 達医師をリーダーとする認知症・せん妄サポートチームを組織し、認知症ケアの質の向上をめざしています。主要メンバーは医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー(MSW)。月に1度、メンバーが集まり、認知症患者さんについて情報共有し、課題の対策について話合っています。



また、日常的なケアは、2名の認知症看護認定看護師(日浦麻喜・近藤千春)が中心となって行っています。日浦が2階(1病棟)、近藤が3階(3病棟)を担当。認知機能の低下している患者さん、認知症を患っている患者さんにきめ細かく目配りし、問題行動の原因を探ったり、ご本人の意思を尊重したケアの実践や看護師教育などを行っています。それに加え、月に2回、2人が一緒に病棟全体をラウンドし、ケアの必要な患者さんを訪問して情報を収集。必要に応じて、認知症・せん妄サポートチームのメンバーに相談し、多職種で課題を共有して、より良い解決策に繋げています。



運動不足解消④ 電車やバスではなるべく立つ、階段を積極的に使うといったことを習慣づけましょう。